

手賀沼花火大会 2026

打上プログラム 我孫子会場

★ 大会の目玉 ★

19:52 尺玉創作・競技玉

高城煙火店 創作・競技玉 5発 《菅原興業(株) 協賛》

競技玉は、多重芯など伝統的な技を競う玉として知られますが、今回の5発では、そうした競技玉の魅力に加え、変化に富んだ創作玉もあわせてお楽しみいただけます。玉の丸さ、色の移ろい、芯のそろい方など、それぞれの見どころを味わいながらご覧ください。

1

青変点芯 錦先青紫水色緑紫変点菊

(アオヘンテンシン ニシキサキアオムラサキミズイロミドリムラサキヘンテング)

中心の芯が青へ変化しながら明滅し、外側の菊は錦の尾を引いたのち、青・紫・水色・緑・紫へと次々に色を変えていきます。一玉のなかで五色をわたる、色数の見どころ豊かな一発。

2

青変幻芯 レモン彩色ピンク八方咲

(アオヘンゲンシン レモンサイショクピンクハッポウザキ)

青へ幻のように移ろう芯を中心に、レモン色とピンクが彩りよく八方へ開きます。丸い菊とは異なり、花びらが放射に伸びるコスモスのような姿。

3

錦変色芯 レモン牡丹錦残輪

(ニシキヘンショクシン レモンボタンニシキザンリン)

銀から変色していく芯を中心に、尾を引かない澄んだ星＝牡丹が、爽やかなレモン色で咲きます。花が消えたあとにも錦色の輪だけが夜空に残る、余韻の一玉。

4

八重芯 錦先マゼンタ銀乱

(ヤエシン ニシキサキマゼンタギンラン)

芯が二重に入り、外周と合わせて三重の同心円を描きます。錦の尾の先がマゼンタに変わり、銀の乱れ星がきらめきながら散ります。芯の丸さと同心円の正確さが、そのまま花火師の腕になる一発。

5

三重芯 引先ピンク光露

(ミエシン ヒキサキピンクコウロ)

芯が三重、全体で四重の同心円を描く大技。引きの先がピンクへ変わり、最後に露のような光がきらきらと明るく輝いて消えます。創作・競技玉の締めくくりとして、第2部を彩ります。

花火の見かた ミニ解説

芯 (しん) …… 花火の中心部に現れる円形の模様。八重芯・三重芯は、芯が幾重にも重なって見える花火です。円が真円に近く、外側の輪と整っているほど高い技術とされます。

菊 (きく) / 牡丹 (ぼたん) …… 菊は尾を引きながら開く花火、牡丹は尾を引かず点が丸く開く花火です。

変色 (へんしょく) …… 開いたあとに星の色が変わる技法。色の切り替わり方やそろい方も見どころです。

尺玉 (しゃくだま) …… 直径一尺(約30cm)の花火玉。夜空ではおよそ300m前後に開く大玉として知られます。

地元・手賀沼の空を知り尽くした花火師による珠玉の5発です。どうぞごゆっくりご覧ください。